

【国語科】

1 調査結果の概要

	自校	東広島市	広島県	全国
平均正答率（％）	5 9	7 0	6 9	6 6． 8

2 課題が明らかになった問題の分析と改善策

育てたい力	対象学年	授業改善の具体策
目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力	全学年 B 書くことウ	・低学年のうちから、「本文中から大切だと思う言葉を見つける」活動や、「一番大切だと思うことを一文でまとめる」などの活動を取り入れる。 ・「なぜそう考えたの?」「どこを見て判断したの?」など、叙述や図などから根拠を基にし、説明する力を育てる。
読む目的を明確にして、複数の文章を結び付け、必要な情報を見付ける力	全学年 C 読むことウ	・「始め-中-終わり」や「序論-本論-結論」のまとまりを捉える活動を通して、文章の構造や段落相互の関係を確認し、正確に解釈する力を育む。 ・機会を捉えて意味調べを行うことで語彙を増やす。また、その単元の内容に関わりの深い図書について平行読書させることで、いろいろな言葉に触れることができるようにする。
複数の資料を結び付けて、それぞれの資料がどのような関係にあるのかを考えて読み、まとめたことを条件に合わせて書く力	全学年 C 読むことウ	・それぞれの資料にある、語句や情報を丸や四角で囲んだり、線などでつないだりするなどして、どの部分と結びつくのか視覚的に明らかにしながら読む指導を行う。 ・まとめや振り返りなどで、字数や表現方法など、条件を付けて記述させる。

【算数科】

1 調査結果の概要

	自校	東広島市	広島県	全国
平均正答率（％）	5 4	6 0	5 9	5 8． 0

2 課題が明らかになった問題の分析と改善策

育てたい力	対象学年	授業改善の具体策
異分母の加法及び減法の計算の仕方を理解し、それを用いる力	第5 学年 数と計算	・図や数直線を活用して加数と被加数の単位分数に着目させ、分母を揃える操作が「基にする数を揃える」ことだと視覚的に理解させる。 ・デジタル教材を用いて分数の変化を動的に示し、児童が操作することで通分の意味に気付かせ、共通の単位に着目させ、整数や小数の加法と同様に計算できることを捉えさせる。
除法の意味を理解し、問題場面を包含除の場面と捉え、その目的に応じて、必要な事柄を選択する力	第3 学年 第4 学年 数と計算	・問題場面を数直線や図などで視覚的に理解させ、包含除の問題であることに気付かせる。 ・単位などに着目させることで、除法の立式に必要な事柄（数値）を捉えさせる。
長さやかさの学習の理解の上に、重さの単位や測定方法、表し方について理解し、それを用いる力	第3 学年 測定	・数直線と同様にはかりの目盛りが読み取れることに着目させ、目盛りの読み方を考えさせ、理解させる。

【理科】

1 調査結果の概要

	自校	東広島市	広島県	全国
平均正答率（％）	5 4	6 1	5 9	5 7． 1

2 課題が明らかになった問題の分析と改善策

育てたい力	対象学年	授業改善の具体策
身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識を身に付ける。	第3 学年 物質・エネルギー	・第3 学年「電気の通り道」だけでなく、関連のある単元（第4 学年：電流のはたらき、第5 学年：電流がつくる磁力、第6 学年：電気の利用）において、電流を通すもの（金属）と磁石につくもの（鉄）についてとりあげ、児童の理解を深める。
レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現する力	第5 学年 生命・地球	・疑問や気付きを基に、児童が「問題（課題）」を醸成し、疑問を示す趣旨で表現できるよう第3 学年から継続して指導する。文末を「～か」で表現することを指導し、表現させる。
問題に対するまとめを導きだす際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現する力	第4 学年 物質・エネルギー	・問題（課題）を解決するために、予想や仮説を明文化し、そこから調べる必要があることを明確に捉えさせ、観察・実験に組み込んで計画させる。 ・【結果】に基づき正しい【問題に対するまとめ】を導きだし、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討させる。

【質問紙】

I C T機器の活用

(1) 全国及び広島県平均と比較しての自校の状況

	質問番号	質問	自校	東広島市	広島県	全国
1・2	(28) 児童質問調査	5年生までに受けた授業で、P C・タブレットなどのI C T機器をどの程度使用しましたか。(週3日以上)	83.3%	77.0%	74.6%	71.7%
	(58) 学校質問調査	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人の配備されたP C・タブレットなどのI C T機器を、授業でどの程度活用しましたか。(週3日以上)	ほぼ毎日 (1日に複数の授業で活用)	96.9%	95.5%	96.6%
3	(29-3)	あなたは自分がP C・タブレットなどのI C T機器を使って情報を整理(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思いますか。(とてもそう思う、そう思う)	44.4%		71.1%	69.3%

(2) I C T機器の活用をさらに進めるための取組

	現在の状況	対象学年	日常的なI C T機器の活用に向けての取組	検証方法	目標値
1・2	・学年に応じて段階的に活用している。 ・GIGA 支援員に普段の授業を参観してもらい、I C T利用に関わる助言をもらっている。	全学年	・日々の家庭学習の中にドリルパークを位置づけ、週に3日以上は活用させる。 ・1人1台端末の利用に関する交流を月に一度会議の時間を用いて行う。	12月の学校教育レベルアッププラン等アンケート	全児童が週3日以上活用している割合90%以上
					全教職員が週3日以上活用している割合90%以上
3	・I C T機器を活用してグラフや表を作って情報を整理するという機会を設定できていない。(5.6年生対象のR6学校教育レベルアッププラン等アンケートでは週1回以上活用している児童は28%)	全学年	・委員会活動や係活動などで資料を作る際に、I C T機器を活用してデータを整理させる。 ・持久走記録会の記録表を紙ではなくI C T機器を活用することで、自分の記録を入力するとグラフになるという活用経験を積ませる。 ・1～3年生は写真をスライドに挿入するなどの活動を授業の中に取り入れてI C T機器を使って情報を整理する経験を積ませる。	12月の学校教育レベルアッププラン等アンケート	全児童が週1日以上活用している割合40%以上

2 その他

(1) 自校の児童の実態①(児童質問調査)

	質問番号	質問内容	自校	東広島市	広島県	全国
	(5)	自分には、よいところがあると思いますか。	88.9		88.1	86.9
	(7)	将来の夢や目標を持っていますか。	88.9		83.9	83.1
	(12)	学校に行くのは楽しいと思いますか。	94.4		86.6	86.5

(2) 自校の児童の課題(児童質問調査)

	質問番号	質問内容	自校	東広島市	広島県	全国
1	(31)	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。	55.6%	67.7%	66.1%	68.6%
2	(32)	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	55.6%	82.4%	80.7%	80.3%

(3) 課題の原因と改善に向けての具体的な取組

	課題の原因の分析	対象学年	具体的な取組	検証方法	目標値
1	・自分が何を一番伝えたいのか、どのように伝えればいいのか分からない児童がいる。 ・順序や道筋を立てて伝えられていない。	全学年	・算数科において、説明するときの話型を提示する。 ・国語科において、思考ツールや付箋等を用いて、自分の考えや情報を視覚的に整理したり、効果的な資料になっているか友達と相談したりする活動を取り入れる。 ・自分の考えを具体物やI C Tを活用し、表現する活動を積極的に取り入れる。	1月に同様の質問項目について全校児童を対象にしたアンケートを実施する。	肯定的回答80%以上
3	・児童の自己理解やメタ認知の力が十分でなく、児童自身が自分の課題を見付けられていない。 ・課題に合った解決方法を理解していない。	全学年	・動画を撮ったり、ふり返りの時間を十分に設定したりすることで自分自身の学びの姿を振り返られるようにし、児童の自己理解やメタ認知の力を育成する。 ・ヒントカードやモデル文を提示する。 ・同じ單元でも複数の教材を用意したり、学び方を選べるようにしたりして、自己選択できる場を設定する。	1月に同様の質問項目について全校児童を対象にしたアンケートを実施する。	肯定的回答80%以上